

戦争と天然ガス：イスラエル侵略とガザ沖ガス田

Michel Chossudovsky

Global Research、2009年1月8日

(ご注意：下記は、非常に興味深い、首題英文記事の冒頭のみ訳したものの。)

イスラエル軍によるガザ軍事侵略は、戦略的な沖合理蔵ガスの支配と所有に直接関係している。

これは領土獲得戦争なのだ。ガザ沖の膨大な埋蔵ガスが2000年に発見されていた。

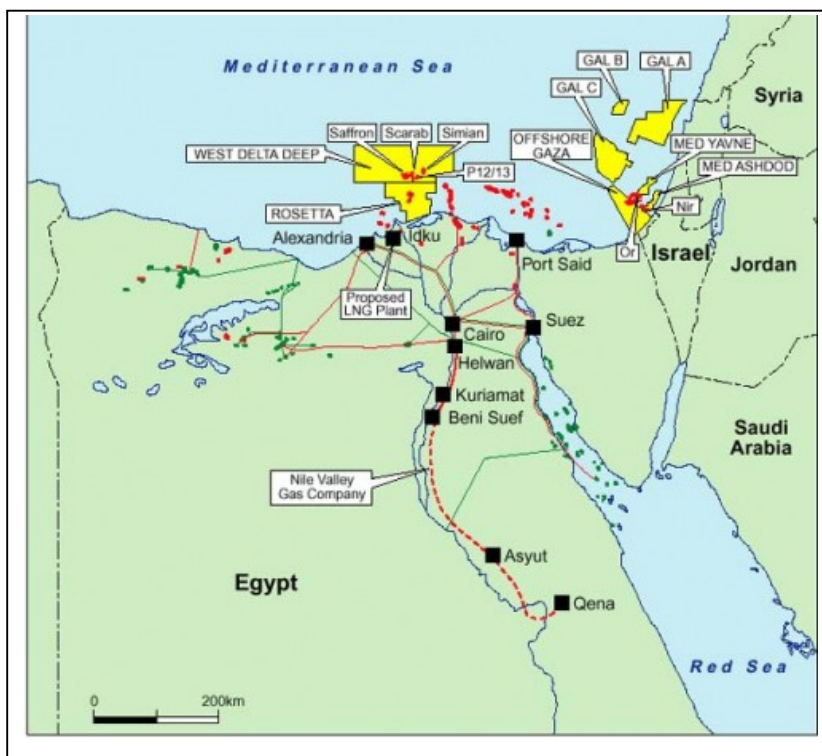
ブリティッシュ・ガス（BGグループ）と、そのパートナー、レバノンのサバグ家とカウリー家が所有し、アテネに本社を有するコンソリデーテッド・コントラクターズ・インターナショナル・カンパニー（CCC）が、1999年11月、パレスチナ自治政府から25年間の石油とガス探査権利の契約を得た。

沖合ガス田の権利は、ブリティッシュ・ガスが60%、コンソリデーテッド・コントラクターズ（CCC）が30%、そして、パレスチナ自治政府の投資ファンドが、10%だった。（ハーレツ、2007年10月21日）。

PA-BG-CCCの契約は、ガス田開発とガス・パイプライン建設を含んでいた。（ミドル・イースト・エコノミック・ダイジェスト、2001年1月5日）。

BGのライセンスはガザ沖海域を対象とし、幾つかのイスラエルの海上ガス施設に隣接している（地図参照）。ガザーイスラエル海岸線に沿った埋蔵ガスの60%は、パレスチナのものであることに留意すべきだ。

BGグループは2000年に二つのガス井戸を掘削した。ガザ・マリン-1と、ガザ・マリン-2だ。ブリティッシュ・ガスは、埋蔵量を、1.4兆立方フィート台、価値を約40億ドルと推計している。これはブリティッシュ・ガスが公表した数値である。パレ





スチナの埋蔵ガスの量はずっと大きい可能性もある。

誰がガス田の所有者か

ガザのガス田を巡る主権問題が決定的に重要だ。法的な見地からは、埋蔵ガスはパレスチナに所属する。

ヤセル・アラファトの死、ハマース政府の選出と、パレスチナ自治政府の崩壊が、イスラエルが、ガザ沖合の埋蔵ガスを巡る事実上の支配権を確立することを可能にした。

ブリティッシュ・ガス (BGグループ)

は、テルアビブ政府と交渉を続けた。そこでハマース政府は、ガス田を巡る探査と開発権に関し、無視された。

2001年にアリエル・シャロン首相が選出されたことが、大きな転換点だった。海洋ガス田を巡るパレスチナの主権が、イスラエル最高裁で問題にされた。シャロンは“イスラエルは決してパレスチナからはガスを購入しない”とはっきり主張し、ガザ沖の埋蔵ガスはイスラエルのものだとほめかした。

2003年、アリエル・シャロンが、ブリティッシュ・ガスが、イスラエルに天然ガスをガザ沖のガス田から供給することを認める最初の契約に拒否権を発動した。(インデペンデント、2003年8月19日)

2006年にハマースが選挙で勝利したことで、マフムード・アッバースが率いるヨルダン川西岸に閉じ込められたパレスチナ自治政府の崩壊がもたらされた。

2006年、ブリティッシュ・ガスは“ガスをエジプトに送る契約を署名する直前だった” (タイムズ、2007年5月23日)。報道によると、イギリス首相トニー・ブレアがイスラエルに成り代わり、エジプトとの契約を握りつぶす目的で介入した。

翌年の2007年5月、イスラエル内閣は、エフド・オルメルト首相の“ガスをパレスチナ当局から購入する”という提案を承認した。提案された契約は、40億ドル、利益は20億ドル台で、このうち10億ドルがパレスチナに入るはずだった。

ところがテルアビブは、収入をパレスチナと分け合う意図など皆無だった。イスラエルの交渉者チームは、イスラエル内閣によって、ハマース政府とパレスチナ自治政府を無視し、BGグル

ープとの契約をなんとか締結するよう、お膳立てされていた。

“イスラエル防衛当局はパレスチナには、物資とサービスで支払うことを望んでおり、ハマースが支配する政府に一銭も入らないようにするよう主張した”。(同上、強調は筆者)

以下、略。

<http://eigokiji.justblog.jp/blog/>